

さまざまな患者さんに対応し、 限られたスペースを生かす工夫の数々。



西別館の新しい病棟の、個室のトイレ・シャワー空間。必要な設備が揃い、患者さんを包む安心がある。壁掛式便器、巻上巾木で清掃もしやすい。

産業医科大学病院は、北九州市やその周辺エリアの地域医療に貢献し、福岡や西日本地区の「頼れる病院」として常にトップクラスに選出されています。

今後ますます急性期医療を充実させ、地域の人々や、1,000名弱もいる待機患者さんに向けた環境改善をはかるために、2012年1月から、西別館3・4Fの2つの病棟において、病床を60床増やすにあたっての改修工事が行われ、5月からオープンしました。

8角形のトイレ・シャワー空間は、 車いすでの出入りや移乗もスムーズ。

西別館の3・4Fは、今までは実習室、講義室、面談室、会議室などに利用されていました。この用途を変え、全診療科が共同で利用する4Fの4W病棟と、がんセンターや放射線科、化学療法センター・血液科が入る3Fの3W病棟へと改修しました。すべての壁の変更はもちろん、段差を設けないバリアフリーが前提条件だったこともあり、一部の床も打ち直すような大工事が行われました。

限られた空間を効率よく生かし、患者さんの動線を考えながら使いやすさを高めるために、個室のトイレ・シャワーのユニットを8角形にして洋式便器を斜めに配置し、車いすからの移乗もしやすくするなど、多くの工夫が施されています。また、便器のまわりの手すりや背もたれなど、安全性に配慮したり、介助のしやすさや清掃のしやすさといった観点からも検証がなされています。



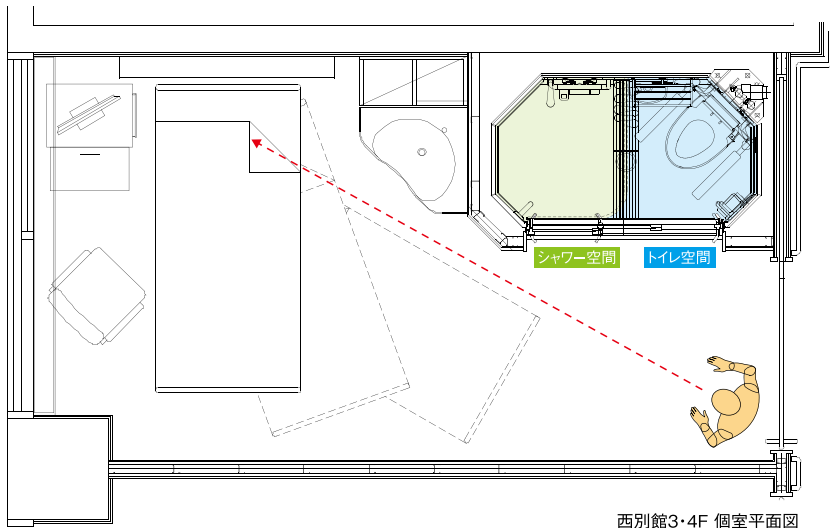
中央に見える4階建ての建物が西別館。この3・4Fの病棟が改修された。

【産業医科大学病院改修工事】

- 改修年月 / 2012年4月
- 所在地 / 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
- 施主 / 学校法人産業医科大学 産業医科大学病院
- 設計 / 株式会社伊藤喜三郎建築研究所
- 病床数 / 678床(トータル)



4W病棟のスタッフステーション。4W病棟は落ち着いた雰囲気の木目調でコーディネートされ、3W病棟には癒しを与えるグリーンやイエローが用いられている。



西別館3・4F 個室平面図

患者さんにもスタッフにもやさしい合理的かつ効率的なユニット。

トイレ・シャワーのユニット空間は、直角の角をなくして8角形にしたことで、ベッドを角にぶつけないでカーブさせながらスムーズに搬入することもできます。また、直角にした時よりも視界が広がるため、看護師さんが部屋の入口付近からベッドにいる患者さんの顔をうかがいやすいという効果も。日々、患者さんを見守るスタッフにもやさしいユニットとなっています。

Voice 患者さんからの声

狭いと感じたことは、まったくありませんよ。

トイレブースは、点滴も一緒に中に入れられる広さがあるので、使いやすいですね。便器が斜めに付いているから出入りしやすいですし、もし便器を横に付けたら狭くなるんじゃないですか。インターネットができることもあってこの部屋を希望しましたが、生活しやすい場所だと感じますね。



患者さんが点滴台ともに入っても十分な広さである。



出入り口には段差のない3枚引戸を採用。洗面台を使用する場合のアプローチもスムーズである。



シャワー使用時には中央のカーテンで仕切ることができる。



左右どちらからでも出入りできる3枚引戸。



尿瓶などを洗うために使う専用のシャワーも設けられている。



基本的には、廊下を挟んで一方が個室、一方が4床室の並びとなっている。

Voice 設計担当の方からの声

緊急時のことまでしっかり考えました。



株式会社
伊藤喜三郎建築研究所
設計本部
第二設計部 主任
小柳涼さん

床をフラットにして患者さんの安全を確保することが絶対条件での改修でしたが、そこは徹底的に工事しました。個室のトイレ・シャワー空間は、スペースの制約がある中で緊急搬送の場合などを考えると、これしかないという感じでした。個室の間口を少しでも広くしながら、トイレ・シャワー空間自体も広くするという折り合いをつけられたと思います。産業医科大学病院様は組織の連携がとれていて、早く判断していただけるなど協力的でたいへん助かりました。

いざという時でも、患者さんを守る設備。 元気になってもらうための配慮も。

患者さんがどんな状況になっても、すぐに対処できるように、さまざまな工夫が施されています。患者さんの気配をうかがうことができるように、4床室のトイレの扉に擦りガラスを埋め込んだり、緊急時に扉をフルオープンにできる仕様になっていることも、そうした配慮の一つです。

もう一つ大切にしているのが、入浴環境です。清潔さを保って感染防止をはかるとともに、患者さんの気持ちをケアするうえで爽快感から元気になれることを重視。共用のバスルームのほか、全個室にトイレとともにシャワーを導入しています。



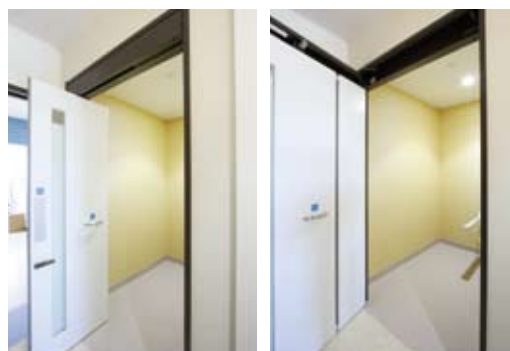
4床室のトイレ。リハビリのためにも跳ね上げ手すりがよいと考えられた。壁の色は、患者さんを元気づける明るいイエロー。



個室以外を希望される患者さんもいるため、間仕切り家具などでプライバシーを確保できる4床室を設けている。



共用のバスルームとシャワールーム。バスルームは患者さんたちの人気が高く、男女で日を分けて利用スケジュールを組んでいる。



安全のポイント

トイレの扉は折戸だが、患者さんの容体が急変された時に、扉のフレームごと大きく開けられ、ストレッチャーが速やかに入れるよう工夫が施されている。

患者さんやスタッフの動線を考え、共用のスペースをフロアの中央に集約したり、検尿用トイレと汚物処理室が近くにあるなど、回遊性と利便性を高めたレイアウトになっています。



自由に使える共用のランドリーとトイレ。このような共用設備が、病棟フロアの中央にまとめて配置されている。



汚物室には、コンパクトで水はねの少ない汚物流しを設置。尿が見えず臭いの問題を解消する蓄尿器も置かれている。左奥が検尿用トイレ。



ご家族の方が泊まることもできる、インテリア性の高い特別室。ベッドの頭上には非常用電源や酸素吸入口なども設けられている。

Voice 看護部長さんからの声

患者さんの「安全」を守るのは、柔軟な発想です。



産業医科大学病院
副院長 看護部長
小竹友子さん

アメニティを整えた病床を病棟ごとに設け、さらに患者さんが療養しやすい環境づくりを行いました。いちばんに考えたのは、やはり「安全」です。例えばトイレの手すりは、必要な人は使うことができる跳ね上げ式にして、左右勝手どちらにも対応できるなど、細かいところまで工夫しています。ナースコールの位置なども、看護サイドとしてはとても重要ですから、うるさいくらい意見を述べました。不特定多数の、どんな状況にある患者さんに対しても、柔軟な発想があれば、公共の視点からしっかりと空間づくりができることを今回の改修で学びましたね。

Voice 看護師長さんからの声

きれいにすることを、いつも徹底しています。



産業医科大学病院
4W看護師長
深川直美さん

いつも清潔できれいな環境をつくるために、掲示物はすべて跡が残らないようにマグネット貼りにするなど、スタッフ全員で決めごとを行っています。病棟では特に、ほこりやカビが怖いものですから、専門スタッフによる清掃以外にも、看護師全員が毎朝それぞれの病室の拭き掃除をするなど徹底していますね。脱毛の具合や食べこぼしなどから、さまざまな情報を得ることができますし、日々の取り組みから患者さんに接することが大切だと考えています。